

夏の台風

夏は太平洋高気圧が張り出し、偏西風が北上しているため、夏の台風は秋の台風に比べて、動きが遅く、複雑な進路をとるといった特徴があります。このため、記録的な集中豪雨になることがあり、昭和49年の台風8号と昭和50年の台風5号では四国各地に被害をもたらしました。香川県東かがわ市と高知県仁淀川町の例をご紹介します。

■昭和49年7月の台風8号（香川県東かがわ市）

昭和49年（1974）7月6日、台風8号による集中豪雨のため、白鳥町（現東かがわ市）与田山では、午前9時からの16時間の総雨量375ミリ、最大1時間雨量65ミリを記録しました。各地で山崩れ、河川の氾濫、堤防の決壊などが起こり、白鳥町の被害は建物半壊1棟、一部損壊2棟、床上浸水382戸、床下浸水1,977戸、道路損壊14箇所、橋梁流失1箇所、河川堤防決壊52箇所などに及びました。田ノ口池でも堤防の下流側面全域に崩壊が生じ、特に西約30mの間は決潰に瀕したため、23時に避難命令が発令され、田高田地区民は白鳥中学校に避難しました。昭和49年から昭和50年にかけて田ノ口池の災害復旧工事が実施され、堤防に災害復旧記念碑が建立されています。＜白鳥町史編集委員会編「白鳥町史」1985年及び田ノ口池の災害復旧記念碑＞



■昭和50年8月の台風5号（高知県仁淀川町）

昭和50年（1975）8月17日8時50分頃、台風5号が高知県西端の宿毛市付近に上陸しました。この台風は東側に雨域が集中し、県中部の仁淀川上流で激しい雨が数時間続き、記録的な集中豪雨となりました。最大1時間雨量は佐川で108ミリ、池川で74ミリに達しました。県中部では山崩れ、土石流が相次ぎ、河川は氾濫して大洪水となりました。池川町（現仁淀川町）では、増水のため家が流されて死者1人、行方不明1人、重軽傷9人のほか、家屋の全壊38戸、半壊29戸、一部破損30戸、床上浸水96戸、床下浸水67戸などの被害が出ました。池川保健福祉センター前にある台風五号記録碑には、当時の最高水位点を示されています。測ると、最高水位点は地面から約135cmでした。＜高知県編「昭和50年台風第5号第6号の災害記録」1976年、岡田明治「仁淀川誌」1979年など＞

